

令和元年度学校経営の重点

「夢の実現 加古川北 ～輝く未来を生きるために～」

教育方針

校訓「克己自律・質実剛健・友愛協調」のもと、主体的に人生を切り拓き、生涯にわたって夢や志の実現に向けて挑戦する生徒を育てる

目指すべき学校像

- (1) 保護者や地域に愛され誰もが誇りに思う学校
- (2) 生徒や教職員の意欲と活気に満ち溢れた学校
- (3) 社会の変化とニーズに柔軟に対応できる学校

教育目標

- (1) 「確かな学力」を身につけ、「夢」の実現に挑戦するための「学び」の場の構築
 - ① 「知識・技能」の確実な習得と活用を目指したわかる授業づくり
 - ② 自ら立てた問いを解決できる「思考力・判断力・表現力」を育成する授業づくり
 - ③ 多様な人々と「協働して主体的に学びに向かう態度」を涵養するための授業づくり
 - ④ 高大接続改革を踏まえた入試問題等の分析とそれに対応した学習体制づくり
 - ⑤ 情報収集力や感性を養うための読書活動を支える学校図書館の活性化
- (2) 変化の激しい社会の中で、自立して逞しく生きる意欲を持った人材の育成
 - ① 将来の生き方や働き方を職場体験活動・大学研究等を通じて見つめるキャリア教育の推進
 - ② 社会人として職場や地域社会で多様な人々と関わって生きていく力の育成
 - ③ 政治的教養を高め、社会に主体的に関わろうとする態度の育成
 - ④ 生徒会活動やボランティア活動を通じた地域や社会に貢献しようとする意識の涵養
- (3) 地球的視野で思考・判断し、世界に雄飛する人材の育成
 - ① 留学生の招致や生徒の海外留学を通じた異文化理解・日本文化の紹介
 - ② 国際感覚を備えた人材の育成を目指したオーストラリア短期語学研修の実施
- (4) 思いやりの心と規範意識を持ち、共生社会の実現を目指す人間性豊かな人材の育成
 - ① 挨拶や身だしなみ、時間厳守等、社会のマナーやルールを尊重する態度の育成
 - ② 自己をかけがえのない価値ある存在として受け止める自尊感情の涵養
 - ③ 他者の人権を尊重し、異なる価値観や生き方を理解しようとする態度の涵養
 - ④ 自らの命を守り、緊急時に主体的に行動できる人材の育成

組織の活性化

- (1) 地域と連携した安心・安全な学校づくりと学校評価の推進
 - ① 家庭・地域・中学校等への積極的な情報発信と、学校全体による情報の共有
 - ② PTA・同窓会・地域と連携した教育活動の展開
 - ③ すべての生徒が安心して通える教育環境づくり
 - ④ 学校評価の検証と学校改善
- (2) 教職員の資質向上
 - ① 計画的な職員研修の実施
 - ② 部・委員会・学年及び各教科の目標とその成果と課題の明確化
 - ③ 心身の健康と適正な勤務時間の維持

1 指導の重点

単位制高校としての強みを生かし、家庭や地域に信頼される学校を目指す。

- (1) 習熟度別指導・少人数指導により基礎・基本の確実な定着と活用する力の育成を図るとともに、シラバス・ガイダンスブックを有効に活用し、3年間を見通した指導を行うことにより、生徒一人ひとりの進路希望の実現を図る。
- (2) 授業公開や研究授業、授業評価などを通して授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」「わかる授業」を積極的に推進する。
- (3) 自ら学ぶ意欲や「思考力・判断力・表現力」など確かな学力を育成し、自己選択・自己決定できる力を養い、生徒一人ひとりの自己実現をめざした進路指導を推進する。
- (4) 生徒の内面的理解、人間的なふれあいに基づく生徒指導の更なる充実を図り、自尊感情を高め自主性・自律性を育て、社会性の涵養に努める。
- (5) 生徒会活動、部活動の充実を図り、更なる学校の活性化と落ちついた雰囲気の中にもメリハリのある校風の樹立に努める。
- (6) 教育活動のあらゆる機会を捉え、自他の生命を大切にする心の教育、人権を尊重する精神の涵養に努める。また、ボランティア精神、他者を思いやる心、感謝の心などを涵養し、共生社会の実現に向け、福祉教育、防災教育、国際理解教育、安全教育、健康教育、主権者教育、道徳教育の充実に努める。
- (7) 情報社会に主体的に対応できる情報教育の推進を図り、情報モラルの一層の向上や情報活用能力を高めるとともに、校内の協働体制の確立に努める。
- (8) 朗読会やビブリオバトル、広報活動等の図書館活動を通して、読書活動の一層の充実と推進を図る。
- (9) 教育者としての使命と自覚のもと、教職員自らが豊かな人間性の涵養に努め、幅広い体験を通して視野を広げるとともに、専門性や実践的指導力を高めるための研修を継続的に行う。
- (10) 学校評議員会やPDCAサイクルを意識した学校関係者評価の実施、評価結果の公表を通して、学校と地域の連携を深め、地域に信頼される学校づくりを推進する。

2 教科指導及び生徒指導（特別活動を含む）の重点

(1) 教科指導の重点

- ・ 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働して主体的に学びに向かう態度」の要素を踏まえ、自ら学ぶ意欲や態度を培うとともに、生徒一人ひとりの能力の開発・深化に努める。
 - ・ 学習の指導方法の工夫や指導内容の充実により、生徒が達成感を感じるような「学び」の場を構築する。
- ① シラバス・ガイダンスブックを有効に活用し、幅広い選択科目、学校設定科目の中から生徒が自己の進路希望を踏まえた科目選択をすることで、学習意欲の向上を図る。
 - ② 学習指導要領の趣旨を生かし、生徒の個性や学習状況を把握し基礎的・基本的事項を確実に定着させる。生徒自らが課題を見つけ、自ら学ぶ意欲や「思考力・判断力・表現力」など確かな学力を育む。
 - ③ 授業の充実により、生徒の学ぶ意欲を喚起する。さらに学校と家庭の連携を図ることや生徒・保護者との面談などを通して、進路実現のための学力と生涯学び続ける態度を身につけさせる。
 - ④ 生徒の実態や能力に応じた到達目標を設け、個に応じた学習指導の徹底、少人数指導や習熟度別学習、コンピュータの活用などの創意工夫により、生徒一人ひとりの学力の向上と個性の伸長を図る。
 - ⑤ 「授業研究委員会」を中心に、授業公開や研究授業、授業評価を実施して研修を深め、指導方法・指導内容の工夫改善を図り、教育の専門家としての資質の向上に努める。

(2) 生徒指導（特別活動を含む）の重点

- ・ 人間的なふれあいに基づく生徒指導を推進し、基本的生活習慣を確立するとともに自尊感情を高め、個性の伸長、自主自律の精神を養う。
- ・ 生徒の内面理解に努め、心の絆を深め、思いやりのあるところ豊かな人間性の育成に努める。そのために学校・家庭・地域社会との連携を密にし、家庭・地域の教育力を活用した生徒指導を推進する。

- ① 全職員の共通理解と共通実践のもとに、一貫性のある指導を行う。
- ② 生徒理解と信頼関係を基盤とした指導体制を確立する。

- ③家庭と密接な連携を図り、生徒の内面理解に基づく指導を推進する。
- ④ホームルームは学校における基本的生活の場であることを理解させ、人間としての在り方生き方、集団の一員としての在り方を考えさせる指導を工夫する。
- ⑤文化祭や体育大会等の学校行事を通して、自主的・自律的な生徒会活動を促す。
- ⑥部活動の充実を努め、心身ともに健康で健全な人間育成の基礎を培う。
- ⑦学校行事においては、生徒の主体的参加を促し、規律ある行動と集団生活に不可欠な「友愛協調」の精神を培う。

(3)進路指導の重点

- ・ 進路指導を組織的・計画的に進め、興味・関心・能力・適性などに基づき、現在及び将来の生き方を考え、自分の意志と責任で主体的に進路を選択し決定できる能力の育成に努める。
 - ・ 社会人としての基盤となる勤労観や職業観について前向きに考える姿勢や態度を育むため、インターンシップの方法を利用し、従来は職業体験が困難であった職種についても、勤労観・職業観を育む。
 - ・ 個性を生かす進路指導の観点に立って、科目選択のガイダンスを行い、進路や職業に対して適切な情報を提供し、進路実現を果たすことができるように指導・援助を行う。
- ①3年間を見通し、1年次から段階的・継続的な進路指導を行う。
 - ②総合的な探究の時間や、ロングホームルームを活用し、進路指導の充実を図る。
 - ③「e-portfolio」に対応した自己の振り返りを蓄積させるとともに、ICTを利用した新たな学習ツールを導入し、その機能を最大限活用する。
 - ④進路資料の充実を努め、生徒が利用しやすく、かつ進路学習に有効な進路資料室の整備に努める。
 - ⑤インターネット（情報検索）環境の充実等、最新の大学・企業等の情報をいつでも活用できる指導体制を推進する。
 - ⑥進路指導室・ガイダンス室・進路資料室の有機的な活用を図り、進路実現を支援する。

(4)人権教育の重点

- ・ 「人権教育基本方針」に基づき、生徒の様々な活動や体験を通して人権尊重の精神を身につけ、「共に生きる社会」の構築に向け、主体的に取り組む意欲と態度を育む。
- ①人権ホームルーム、人権講演会を中心に、学校教育のあらゆる場面において豊かな人間性を育てる人権教育を推進する。
 - ②人権にかかわる課題を有する生徒に対して、家庭訪問や教育相談などを通して、生徒の実態に応じた指導に努める。
 - ③同和問題をはじめ、LGBT、女性、子ども、障がいのある人、外国人、高齢者、HIV感染者などの人権に関わる課題解決への意欲を育む。
 - ④地域の実態や人権意識、学校における人権問題の視点などを的確に把握するとともに、教職員の研修を充実させ資質の向上を図ることで、積極的な人権教育を推進する。

(5)図書館教育の重点

- ①本の紹介活動を通して読書活動を推進し、人間としての感性を高め、豊かな個性を育む。
- ②ビブリオバトル・朗読会・レファレンス大会等を通じ、本への興味関心意識を高揚し読書活動を推進する。
- ③図書委員会活動を通じ、生徒の主体的な発案を基本とした図書館活用を推進する。
- ④図書や資料等の充実を図り、総合的な探究または学習の時間をはじめ授業での図書館利用を促進する。
- ⑤タブレット等のICT機器の利用も促進するなど、場面に応じた最適な学習教材の提供を推進する。

3 健康管理に関する指導の重点

自他の生命の尊重を基本理念とし、生涯にわたって健康で安全な生活を送ることができる能力・態度・習慣を教育活動全体を通して培う。

(1)健康教育・保健活動の充実

学校保健委員会の有機的な運営により、生徒の健康状態を把握し、健康の保持増進に努めるとともに、自主的な健康づくりをさせる。あわせて各種検診を有効活用して健康相談を行い、病気の予防や早期発見を心がけ、適切な指導と助言を行う。

(2) 体力づくりの奨励

体力に応じた身体運動を奨励し、あわせて体力増進のための学校行事を充実する。

(3) 「こころの健康」づくりの奨励

教育相談活動を充実させ、こころの健康づくりを推進するとともに、地域の高齢者や障がいのある児童、乳幼児との関わりを通して互いを認めあい、人を人として大切に思う心を育む。

(4) 安全管理の徹底

戸締まりの励行や施錠の徹底を図り、校舎内外の施設・設備の安全管理に努める。安全点検を実施し事故防止を図る。また、危機管理マニュアルを活用し、学校での安全管理や危機管理の取り組みについて、保護者や地域住民、関係機関と連携し、さらなる安全・安心な学校づくりに努める。

(5) 清掃美化の徹底

安全・衛生・健康に配慮した学校環境とするため清掃の徹底を図る。また、生徒会執行部・美化委員会の呼びかけによる「クリーンアップ大作戦」を全校的に展開し、地域の環境美化に寄与する。

4 研究テーマ

(1) 「高校生心のサポートシステム」研究開発校として、「安全・安心な学校」を目指して、生徒への内面理解を図るとともに、問題発生時には即応して対応チームを立ち上げ、機動力を持って対応のできる校内の環境を整える。

- ・ 大学などの機関と連携し、アンケートや調査の実施を通して生徒の「学校適応感」を捉え、サポート体制を整える。
- ・ 他者を受け入れることのできる学級風土・土壌づくりを中心に、さまざまな教育活動の場面で生徒とのリレーションシップ形成を心掛けた対応に努めるなど、生徒の「援助希求的態度」の育成を図るとともに、教員のスキル向上に取り組む。

(2) 魅力あるひょうごの高校づくり推進事業

- ・ インスパイア・ハイスクール事業を通じ、自己の確かな将来を設計できる力を育てる学校を目指す。
- ・ 目先の受験学力に留まらず、生涯にわたる多様なキャリアの形成に必要な能力や態度を身に付けさせるため、企業や大学の講師による講演・演示を通じ、興味・関心を広げ、主体的に進路を選択ができるように学習活動の創意工夫を図る。

(3) 新学習指導要領の実施や高大接続改革に向けた授業改革

(4) 高校生ふるさと貢献・活性化事業、就業体験事業等を通して、地域に信頼される学校づくりをめざす研究

5 インスパイア・ハイスクール事業で実施する内容

(1) 自分を知る～キャリアデザイン入門～

社会に対する理解・認識を深める。

(2) 自分を知る・職業を知る～キャリアデザイン入門～

社会での出来事を自分のこととしてとらえる力や興味関心を深め自立的な学習力を身に付ける。

(3) 自分を知る・学問を知る～キャリアデザイン入門～

将来大学で学ぶことの意義や将来の自己実現・キャリア形成に向けた力を養う。

(4) 大学教員や弁護士等による講演会ならびに法教育

6 高校生ふるさと貢献・活性化事業で実施する内容

ふるさとの魅力を創出し、ふるさとを誇りに思うとともに、ふるさと・ひょうごを愛する心をはぐくむため、地域での人とのつながりの再生を目指し、環境保全活動、地域行事への参加等を行う。

(1) ふるさと貢献事業

① クリーンアップ大作戦

生徒会、部活動が中心となって地域社会や行政機関と連携して、地域の清掃活動を行う。

② 地域行事への参加

「加古川ツーデーマーチ」「氷丘祭り」等、地元の催し物や祭りに積極的に参加し地域に貢献する。

③社会福祉体験

介護福祉施設や子育て支援施設等と交流し、さまざまな人たちの力となるための活動を行い、共生の輪を広げる。

(2)ふるさと活性化事業

本校周辺地域の歴史や文化の一部であるイベントに企画・立案・参加するとともに、その活性化に貢献する。また、そのことを通じて郷土愛を育み、ふるさとの未来を担う次世代の市民としての自覚を促す。

(3)地域に開かれた学校づくり

①学校ホームページ

生徒や保護者のみならず、中学生や地域住民の理解と関心を深めることを目的に充実を図る。

②「加古北タイムス」

本校に対する地域住民の理解と関心を深めることを目的に、本校の現状や本校生の活躍、普通科単位制の様子を学校新聞の形で発行し、地域や関係機関に配布する。

③オープンスクール

普通科単位制の授業や生徒の活動を県下全域の中学生やその保護者、関係者に公開し、本校の教育実践の成果を広く知らせる。

④オープンハイスクール

動画や生徒自身の言葉によって本校の魅力や躍進する姿を中学生やその保護者に知ってもらう。

⑤授業参観週間

11月に1週間程度、保護者に授業を公開する。参観者からの感想や意見を受容する。

7 高校生就業体験事業で実施する内容

(1)インターンシップによる就業体験の実施

社会人としての基盤となる勤労観や職業観について前向きに考える姿勢や態度を育む。

(2)ふれあい育児体験

乳幼児の心身の発達を学習し、児童文化財（遊具）を製作する。保育園では、製作した遊具（紙芝居や指人形）を使用して園児と触れ合い、子どもへの興味を深め、人間の発達のすばらしさに気づかせることにより、職業観や仕事観を育む。

8 心の教育の推進（キャンパスカウンセラーの配置）

精神的に不安定になりがちな思春期後期の生徒たちの心に向き合い、心理の専門家の立場から生徒へ助言していただくだけでなく、保護者、教師のアドバイザーとしても助言していただき、連携して生徒の成長を支援する体制をめざす。